

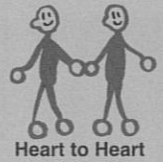
ともしび通信

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号(コープリビング甲南2階)

TEL078-412-3930 FAX078-412-3871

発行人=竹本 成徳 編集人=宮内 明彌



Heart to Heart

第32号

2002年7月発行

2002年度助成金交流会を開催

NPPO、ボランティア活動をささえる寄付の文化

2002年度助成金の決定を受けて、4月16日(火)、26日(金)、27日(土)に3会場で助成金交流会を開催。283グループに9、177、626円の助成金を交付しました。

この交流会は、当財団に助成金申請をし、助成検討委員会および理事会にて承認をされ助成金を受ける個人やグループを対象に、助成金の交付とともに、日ごろの活動に新たな展開をしていただくための学習とグループ

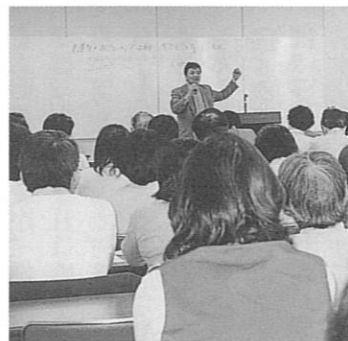
間の交流を図る目的で開催しています。

今年度の学習講演は「NPPO、ボランティア活動をささえる寄付の文化」と題して、近畿ろうきんの法橋聡氏にお話いただきました。

法橋氏は金融マンとして大阪ボランティア協会に2年間派遣され、市民活動を支えるものは「人・もの・カネ・情報」であると実感。その中でも特に、ちよつと活動を広げようと思えば、

瞬く間に資金難に落ちいる市民活動の現実を目の当たりにしてこられました。

アメリカではNPPOやボランティアな市民活動を多くの企業が、社会貢献として寄付をすることで支えています。しかし日本では企業、法人が社会貢献と



法橋氏の講演を熱心に聞く参加者

して行う寄付文化が未成熟なため、ボランティアな市民活動を支えるには、市民からの「寄付の文化」が必要です。多様な市民活動を多様な市民が支える仕組みとして、大阪ボランティア協会在籍中に、近畿ろうきんの「NPPO寄付システム」を開発されました。コープともしびボランティア振興財団でも昨年10月からこのシステムに参加させていただいています。

寄付をするということは間接的な市民活動、ボランティアなのです。「する」側からだけでなく「支える」側の視点の大切さを学ぶ講座内容となりました。

「助成金獲得講座」を開催

エネルギーシユな講義と実習で好評

ボランティア活動の資金調達の有効な方法のひとつが、助成金です。どこにどんな助成団体があり、自分たちの活動に合う資金を提供してくれるところはどこなのか、また申請するための具体的なコツなどを実践的に学ぶ「助成金獲得講座」を、5月18日(土)、コープリビング甲南多目的室で、開催しました。

講師は、T.C.C.C. (Total Communication Center) 代表の赤松弘揮氏。講座前半は講義ス



テンポよく話される講師の赤松氏。わかりやすい話だったと好評でした

タイトルですすめられ、非営利活動の定義から、申請書類を書くときのポイントまで具体的なお話が続きました。「自分たちの活動が一番ではない、つまり活動を客観的に見る」ことが重要であり、「申請書はラブレター

のつもりで書く」つまり、人を惹きつけるものが必要で、助成金は何のために必要かをしっかりと見極めなければならぬなど、参加者がうなずくアドバイスをいただきました。

後半では、グループに分かれ、仮想のテーマで、100万円の助成金を申請する側にとって申請書を書いてみる作業をしたのち、2グループずつお互いの申請書を交換。審査する側になって、必要に応じたヒアリングもかけながら、助成金額を決定するというワークをおこないました。

短時間ではありましたが、参



後半のワークでは限られた時間でしたが熱心に助成申請、審査の作業を行ないました